

山田 奉議殿  
 西仰 奉議殿  
 井上 奉議殿  
 山田 奉議殿  
 村 奉議殿  
 大 奉議殿  
 川村 奉議殿  
 村 奉議殿  
 村 奉議殿

十 正 官

板垣退助等申於於于於原高野ノ為ニ傷  
 ノ如素時年及今之月ノ如誠之道ノ板垣等  
 電送此也

明治五年四月十日 西陽山田昭義

右政大臣之傳書美大殿



一昨六日廳下岐阜中教院於テ自由党ノ者  
數十人高知縣士族正四位板垣退助ヲ招待  
シテ懇親會ヲ開キ同日黄昏頃退助退會ニ  
際シ愛知縣士族相原尚繁者退助ヲ暗  
殺セリトシタル始末別紙檢證調書訊問調書  
ノ通有之候間別紙數葉相添不取敢及御  
通知候也

明治十五年四月八日

岐阜縣令小崎利準

警保局長内務權大書記官田辺良顯殿

意見書

愛知縣愛知郡田代村百四十三番地

士族仙友長男

相原尚聚

明治十五年四月二十七年十月

右、明治十五年四月六日午後六時三十分美濃國山縣  
郡太郎丸村平民藤吉留吉と者、當署へ馳付、今  
田、當、坂、早、地、來、遊、せし、自由、黨、總、理、高、知、縣、士、族  
坂垣退助ヲ、今、明治十五年四月六日午後二時、江  
縣下厚見郡富茂登村ケル神道中教院境内招  
キ懇親會ヲ開キ、只今右退助カ、歸宿セトシテ、該  
會場ニ去開前迄立出ルヤ否、何レノモリタルカ、短刀ニテ  
退助ヲ利シ、負傷セシメ、タ、ん、旨、告、發、セ、レ、二、依、リ、即、時

現場、出張別紙甲号ノ通檢證処分ヲナレ且警  
察医武山巖外医師三名ヲヒテ檢診治療セシメ  
必武山警察医ハ別紙乙号ノ如ク診察セリ而シテ行  
先人即相原尚聚ノ現場於テ愛知縣士族内藤  
魯一等取押、最先、証付名進查、引渡シ該處  
常署、引致セシテ以テ一應ノ訊問ヲナレ其陳述ヲ録  
取テ別紙丙号ノ通板垣退助ヲ謀殺スルノ旨  
懸シテ申供セスト雖モ其決意及ヒ行先ノ始末ハ  
真供アリ右ノ事重大ノ涉ル、ナラス事、件送、御  
交付及、テ、旨貴官ノ命、有、之、被告人等ノ訊問書  
類、兵、未、多、全、カ、リ、カ、ル、モ、被害者ノ陳述、被告ノ自由任  
意、白、状、其、他、ノ、証、憑、及、ヒ、事、實、等、ヲ、於、テ、頭  
書、尚、聚、ハ、謀、殺、罪、ヲ、犯、シ、者、ト、ト、確、認、シ、テ、依、テ

爰、之、意、見、ヲ、記、シ、現、在、ノ、書、類、証、憑、品、等、併、セ  
テ、本、人、及、御、交、付、候、也

明治五年四月廿日

岐阜警察署

警部 柴田 正直

岐阜縣裁判所  
檢事 奥宮 正治 殿

訊問調書

明治十五年四月六日午後十時四十五分岐阜警察署於テ被告相原尚耿ニ對シ陳述ヲ錄取スルノ如シ

問汝ハ父親仙友ノ何男ナルヤ

答長男ナリ

問汝カ住所身今年齡ハ如何

答愛知縣愛知郡田代村百四十三番地士族二十七年

十七月ナリ

問汝ハ当地ヘ何日比来リタルヤ

答明治十五年四月四日当地ヘ来レリ

問汝カ住所ヲ出資セシハ如何

答明治十四年十二月八日ヨリ愛知縣知多郡横須賀

学校へ冬り月俸ハ八圓ナリ

問 汝カ横須賀学校ヲ出癸セシハ何時比ナルカ

答 明治十五年四月一日ナリ

問 汝ハ四月一日ヨリ当地ニ来ハ前四日マテハ何処ニ居リシヤ

答 名古屋區東魚町カ西魚町カ賤ト申度子候下モ浅

井カネト申ス旅舎ニ宿泊シ明治十五年四月四日同

家ヲ出癸当地ニ冬リタル誤ナリ

問 汝カ当地へ冬リタル目的ハ何ナルカ

答 今夜即チ明治十五年四月六日夜ノ目的ニテ板垣退

助ヲ殺シテ巧ミタルハ他ニアラス板垣氏ノタメ國家ヲ

誤マルヲ恐レ一身ヲ抛テ退助ヲ殺セシ積リノ処衆

人ノタメニ取押ヘテタレハ如何ナリヤト思フノミ

問 汝カ板垣退助ヲ殺シテ決心セシハ何時比ナル誤カ詳

細申立ツヘシ

答 退助ヲ暗殺セント決心セシハ明治十五年三月三十一日ニテ

其夜父母兄弟ニハ此事ノ始末ヲ書面ニ認メ糊封シテ

自分カ荷物ナル当時横須賀村ノ加藤茂助方ノ

押入ノ中ニアル風呂敷包へ差入レ置キタリ

問 汝カ封書ノ宛ハ如何記載アルヤ

答 一通ハ父親名宛亦一通ハ学務委員吉田衛門幹

事服部勘樹両名ノ宛ナリ

問 汝カ認メタル手紙ニハ今度ノ始末ヲ記載シ置キタルカ

答 手紙ニハ自分カ死ヲ決シテ板垣氏ヲ暗殺スルト云フヲ

ヲ認メタルマテニテ如何ノ理由ナルカノ一ハ一大事件ニ

付認メ置カス候

問 汝カ横須賀村ヲ出癸シタルハ板垣氏ヲ暗殺ノ目的ナシ

ハ今度ノ行兇短刀ハ何レヨリ買ヒ来リタルモノカ

答 明治十五年四月一日名古屋古渡ヨリ北西側ノ刀屋ニテ  
屋号等知ラカル方ニテ今度ノ行兇刀一腰ヲ金壹圓  
三於五錢ニテ買求メリ之レハ受取書ノアル筈ナリ

問 短刀ヲ買求メ携持方ハ如何致シ居リシヤ

答 当地ニ来リテカラハ肌身ヲハナサスニテ携持致シ居シ

問 汝当地ニ着セシ以來何レニ宿泊セシヤ

答 当地ニ着セシ夜即明治十五年四月四日ハ厚見郡今  
泉村玉井屋伊兵衛方ニ止宿致候処昨五日ハ板垣  
氏共随行員多人教ナリヨリ止宿ヲ移轉方宿主  
ノ談示ニヨリ昨五日夜ハ岐阜中今町紙屋ニテ旅  
舎安藤重平方ニ止宿セリ

問 汝ハ本日板垣氏等ノ懇親會場ヘ同席セシヤ

答 退助ノ容貌等ヲ更ニ知ラセハ本日出席ニテ能ク認  
メ時機ヲ失セサルノ決心ナレハ會場ヘ同席セシナリ

問 汝カ懇親會場ヘ列リタル理由ハ如何

答 名古屋ヲ出發スル際知巳ノモノヨリ岐阜ノ春陽舎ヲ  
尋テテ参ルカ宜敷トリテヨリ同舎ニ参リ尋又ルモ  
不分明ナル処旅舎玉井屋伊兵衛方ニ懇親會  
事務所カアルトノニ依リ右ニ赴キ懇親ノ列席續テ  
宿泊ニ迷惑ノ旨ヲ語りタル処列席ノ鑑札ヲ渡シ且レ  
タ上ニテ右伊兵衛方ニ止宿ヲ談シ且レタト又ニテ  
一泊仕候

問 汝ハ本日懇親會場ヘ何時比ヨリ参リタルカ

答 午後二時比ナリ

問 汝ハ板垣氏ノ出席スルヲ認メテ估殺ス手續ハ如何

答 右會場ノ意外ニ早ク板垣氏ハ歸宿ノコトナリ依  
テ自分ハ玄関ノ下リ段ヲ同道シカヲ退助ノ胸部ヲ  
目的トシ左ノ手ニテ板垣ノ右ノ手ノ二ノ腕ヲ掴ミ而シテ  
將來ノ賊ト呼ビ掛ケ胸部ヲ目掛ケテ刺シタルニ彼  
レ板垣退助右腕ニテ加返シ少ク刀ノ緩ミタル心地  
セシニハ両手ヲ掛ケ再ヒ胸部ヲ突キ貫キタル時彼レ  
板垣ハ轉倒セシニ自分ハ片膝ヲ折リ腹キタリ然カス  
ルヤ吾多人數来リテ取押ヘラレタリ

問 汝カ暗殺セシ巧ミテ短カク擡持シ板垣退助ノ胸  
部ヲ目掛ケテ刺シタルハ前答ニテ明瞭スト雖モ汝カ板  
垣退助ヲ殺害スルノ主意ハ如何

答 退助ハ國家ニ大害ヲナセル賊ナク國ニ尽スノ赤心ヲ以テ

今日ノ仕義ニ及ヒタルナリ其彼レ退助ノ賊タル始末  
ハ國家ノ一大事件ニシテ極メテ秘密ヲ要スルノミナ  
ラス過刻現場ニ於テ多人數ニ取押ヘラレタル際頭面部  
部等ニ摩擦打撲ノ輕傷ヲ負ヒ夫レカ為メ頭痛  
ノ甚キニ苦メリ依テ此席ヲ退テ静思ノ上後刻他  
席ニ於テ詳細陳述致シタレ請フ許容アラシム  
ヲ

問 汝カ板垣退助ヲ暗殺スルニ付テハ黨類アルカ

答 死ヲ共ニスヘキ朋友尋モコレナク故ニ曾テ我カ素志ヲ  
話シタルトモナセハ人ノ勸メヲ受ケタルモノモナク黨類  
ハ一人タモ無之候

右陳述ノ次第ヲ録取シ被告ノ相原尚聚ニ讀ムヘタ  
ル處相違ナキ旨申立ルニ由リ共ニ署名捺印スル者也



明治十五年四月六日

警部 相原尚聚

相原尚聚

書記

巡查名波角次

愛知縣愛知郡田代村百四十三番地士族

相原尚聚 年七 訊問口供抜抄

問 其方カ父母ノ姓名ハ何ト云フカ

答 自分父ハ仙友ト唱へ母ハかくト申兄弟ハ

七人アリ自分ハ長男ニ御座候

問 其方カ弟ハ何歳ニテ何ヲ致シ居ルカ

答 自分弟ハ二十三才ニシテ他家ヲ相続シ石橋

尚宝ト申レ候

問 其次ノ弟ハ何ト云フカ

答 其次ノ弟ハ二十歳ニシテ齋藤家へ養子ニ

参リ多分此頃ニテハ送籍相成リシト

存セラレ候尤モ名前ハ尚友ト申候

問 其方旧藩ノ比ハドフ云フ身分ニテアリシカ

答 自分父ノ時代ニハ家禄本高百五十石後禄  
五十石俵セテ二百石ヲ戴キ副家知事ト申  
ス後ヲ勤メ先ツ中等ノ下等ナル士族ニ御坐  
候

問 其方ハ旧藩ノ頃ニハ何カ勤メ居リシカ

答 何ニモ勤メ申サス候

問 其方ハ旧藩ノ頃ハ勤メヲ致サストモ其後官  
省府縣等へ後ヲ勤メレトハナキカ

答 一切官途ニ就キシトハ無之候

問 夫レデハ製作カ工業カ何カ會社エヲモ  
入リシトハアリシカ

答 自分ノ性質ハ高法ヲ好マサル故右様ノ  
ヲ致シ又ハ入りタルトハ無之候

問 其方カ父ハ些ト學問セシトハアルカ

答 日本外史位ハ一通リ讀ム得ルデアロト  
存シ候何トナレハ幼少ノ比句讀ノ教授ヲ受  
ケタレ其後ハ一向教へ貫ハサル故確トハ申  
上難ク存

問 其方カ師トシテ學問ノ教授ヲ受ケレハ  
誰ナルカ

答 自分カ師トシテ教授ヲ受ケレハ千種村ノ居  
住ニシテ國枝松宇ナル者ニ就キ足掛ケ五  
六年程漢字ノ教授ヲ受ケ候

問 其國枝松宇ナル者ノ學風ハ如何

答 專ラ經史ヲ尊フ學風ニシテ勤王ノ志厚  
キ人ニ有之候

問 其方ハ師範学校ニ何ツ頃入りシカ

答 明治十二年一月ヨリ愛知縣々立師範学校ニ入り同十四年二月卒業致シ候

問 其方師範学校ニテハ何ヲ好ニテ学ヒシカ

答 歴史ト西洋ノ経済学ヲ好ミ又夕西洋ト日本ノ歴史ヲ学ヒ尤モ我國ノ歴史ヲ主トシテ研究致シタル次第ナリ

問 其方國学ヲ学ヒシトハアルカ

答 國学即チ和学ハ我國ノ学問ニシテ一通リハ知ラサルヘカラサルモノニ付相学ヒシ候

問 其方ハ是マテ久シク他行致シタルトハアルカ

答 十七八才ノ時名所旧跡ヲ探ルノ目的ニテ伊勢大和河内ノ諸國ヲ廻リ候

問 其後他國へ参リレドハナキカ

答 明治八年間京橋ノ地方ヲ廻リ又夕西ハ阿藝へ参リ同十年ニ歸國致シ其以來ハ尾張

三河ノ間ニ居リ他段遠隔ノ地ハ出遊致サス候

問 其三河尾張ノ間ニ居リレド何ノ為ナルカ

答 学校ノ教員ニテ学問ヲ教授致シ居リ候其方ハ平生一体交際ヲ廣ク結フヲ好ムカ

問 自分交際ハ素ヨリ希望スル所ナレト乱雜ノ交際ハ余リ好ミ申サス候

問 左スレハ平生一身上又夕学問上ノ事ヲ談ヒ逢フ親友ハアルカ

答 右様一身上ヲ新スヘク親友無之候

問 然ルモ交際ヲ望ムモノナレハ何レカニ親友

ハアルモノナルカ如何

答 自分於テ別類ノ交リヲ結フヘキ程ノ者

ハ無之候得共教育上ニ存テノ朋友知己

ハ随分有之候

問 教育上ノ朋友知己ト云ハハ名ヲ專ルカセ

シ程ノ知己ハアルカ

答 別ニ名ノ聞ヘタル学士紳士ノ内ニ朋友

知己ト云フ程ノ者ハ無之候

問 左スレハ新聞記者演説士等ニ朋友知己

ハ有之ヤ

答 其様ナル朋友知己ハ更ニ無之又タ右記者  
演説士杯ト改談等ヲ分然トナスヨウナ

ル更ニ無之何トナレハ即兼知ノ通集會條例

ニ依リ為シ能ハサル身分ナレハナリ

問 然レハ密カニ政談等ヲ致スニハ誰ト致スカ

答 政治上ノ思想ハ盡リ人ニ有ルモノ存學友

ト漸シタルコトハ有之候得共別ニ是レト云

ツテ談論致シタル儀ハ無之候

問 夫レナレハ其方ハ私ニ何社又ハ何党ト唱フ

ル社等ヘ入りレドハナキカ

答 別ニ政党ニ加入スルコトハ勿論政事上ニ関ス

ル社ヘ入りタルコトハ無之尤モ名古屋表ニ

テ小学教員等ヨリ成リ立タル都ボク社ニ

問 今マ其社ハ如何セシカ

答 蒲燒町善導寺ト申ス寺ニアリタレモ  
今マ殆レト滅々ノ改メ有之候尤モ家初  
社員ハ二百名許有之候

問 其方政黨ニ加ハラズ政事上ノ思想カア  
ル上ハ如何ナル主義ヲ尊奉スルカ

答 漸進主義ヲ奉スルモノナリ  
同 漸進主義ニモ少レク區別アルニ似タリ

其方カ信奉スル所ハ何レヲ取ルカ  
答 詳細ノ丁ニ至ツテハ取ラサル所モアレトモ

先ツ大体ニ於テハ此項ノ立憲政黨ヲ是  
トスルモノニ有之候

問 其方カ欽望スル所ノ人ハ如何ナル風ノ人  
ヲ好ムカ

答 當世ノ人ハ棺ヲ蓋フハサレハ其説ノ確實  
ヲ得サルニ因テ申上ケ難ク先ツ文天祥ノ  
如キ正忠ニシテ知略アル人ヲ欽望致シ候

問 其方カ知多郡横須賀学校ノ教員トナ  
リレハ何ツ頂ナルカ

答 昨明治十四年十月八日ニ有之候  
其方ハ訓導主任命致シ居シカ

問 明治十四年二月卒業ノ上丹羽郡稻置村ノ  
学校教員トナリ又其年ノ五月三河國南

設楽郡田原村学校教員トナリ十月ニ至リ  
病ヒノ為メ二月休ニ同十二月八日ニ至リ知

多郡横須賀村横須賀学校ニ参リ都合  
三度ノ変遷故訓導ヲナレモ未タ辞合マラ

受タル時日ナキ故其辞令ハ受ケ居ラス尤モ  
月給ハ稍置ニテハ九圓田原ニテハ十圓横須賀  
ニテハ八圓ニ有之候此ノ如ク横須賀賀ニ矢多リ  
ニハ病氣ノ為メ極風ニ吹カレシコトヲ望ミシ  
儀ニ有之候

問 其方カ横須賀ノ学校ヲ出テシハ何日ナルカ  
答 本年四月一日ニ有之殊ニ二日三日ハ休日ノ  
ナレハ夫レヲ兼子家ニ帰ルト云ツテ同所ヲ  
立出テ候

問 今回ノ事件ニ付テハ兼子テ同志ノ者ト共謀  
シ或ハ他ヨリ誘導ヲ受ケテ為シタル義ニハ  
無之ヤ斯ク如ク一大事件ヲ企ツルハ早  
独ノ了簡ニテハ決シテ難カルハレ此辺正實

ニ陳述セヨ

答 素ヨリ一身ヲ抛キ國家ノ為メニ如斯大事ヲ  
企ツルニ何ソ他人ノ誘導ヲ指令ニ從フヲ為  
サレヤ若シ我レヨリ思ヒ立タスシテ人ヨリ教  
令セラレモナラハ君命ヲ除クノ外決シ  
テ從フヘキ謂レナシ且ツ又兼テ申立ル如ク  
昨年ノ十月此事ヲ思ヒ立キヨリ以來朋友  
共ノ交際ヲ疎シ居ル様ノ次オナレハ今  
今回ノ事ハ自今一己ノ独断ニ出テタルモノ  
ナリ

問 抑モ汝カ板垣氏ヲ刺殺セント企意セシ所ノ  
趣旨ハ如何ナル原由アリテノ事カ詳カニ  
其趣旨ヲ陳述スヘシ

答 素ヨリ此事ヲ謀ルニ付テハ深キ趣旨アリテ  
ノ事ナリ併シナカラ昨夜モ上申セシ通此  
暗殺ノ旨趣ヲ申述ヘ為メニ世上ニ流布スル  
片ハ是レニ因テ大害ヲ生スヘキノ恐レ之レアル  
ニ付東京ニ送致相成ルカ左ナキ片ハ更ニ他  
ニ漏レステテ直ニ大臣参議ノ内ニ此事ヲ達  
シ得ラルヘキ充分ナル手段之レアルナレハ  
素ヨリ陳述致スヘクナレト然ラサレハ此處ニ  
於テ申立ルハ實ニ自カヲ詳述スルヲ苦ム  
所ナリ  
問 果シテ秘密ニ関レ世ニ害ヲ生スヘキ事柄ト  
見認ムル片ハ是レヲ秘密ニスルノ方法ナキニ  
非ラス懸念ナリ申立ツヘシ

答 当夜ハ余程深更ニモナリ昨夜以来身体  
非常ニ疲労致シ萬一陳述錯誤ノ義アリ  
リテハ不都合ニ付何卒明日迄御取調極  
豫セラレテ了ラ願フ  
右ノ通陳述ノ次ヲヲ録取シ讀取ヘシ處相違  
無之旨申立ルニ依リ共ニ署名捺印スル者也

明治十五年四月七日

午後十二時終

相原尚聚

調書

明治十五年四月八日午後一時十分岐阜輕罪裁判所於テ被告人相原尚聚ニ對シ第二回ノ訊問ヲナシタリ

問 今日ハ昨夜訊問セシ続キヲ取調ヘク問正實ニ申立ツヘシ

答 羨知セリ

問 其方ハ是迄東京表へ参リタルアリシヤ

答 自分ハ是マテ東京表へ罷越シタルナシ

問 左スレハ東京ニ在ル人ニ懇意ナル人ハ有之カ

答 官途ニ就キ或ハ書生ニ知り合ヒアレハ別段懇親ニスル程ノ者ハ無之候

問 其方ハ所持シ居ル各種ノ新聞ハ其方一人

外務省



ニテ取り居リシカ

答 博校等ニ於テ新聞ヲ見ルコト有之レモ自力  
ヲ以テ絶ヘス取り居ル様ノ事ハ無之候尤自分  
所持セシ新聞ノ内東京日々新聞ヲ除ク外  
ハ名古屋石版舎於テ買求メタルモノ有之候  
問 左スレハ昨夜申陳ヘシ四月三日旅店滞在ノ時  
閱覽スル因リニテ購求セシ者ナルカ

答 自分ハ平生各種ノ新聞ヲ取ル丈ケノ資力ハ  
無之候ヘ共名古屋等へ出ルキハ必ス諸新聞  
ヲ閱覽スルコトヲ好ムモノニ付斯ノ如ク各種ノ新  
聞ヲ購求致シタル次第ナリ

問 一昨六日板垣退助氏ヲ暗殺セシ為メニ用ヒ  
タル短剣ハ之レナルヤ(此時短剣ヲ示ス)

答 然リ其短剣ニ相違無之候(此時被告ハ萬ト見認メ兼認ス)

問 右ノ短剣ハ何レニ於テ購求セシカ  
答 兼テ陳述セシ通り四月一日名古屋古渡ノ内  
一ノ鳥居ヨリ北西側ナル刀剣ヲ商フ店ニ於テ  
代價港圓三拾五錢ニテ購求シ其節請取  
ヲ取置キタレモ今マハ紛失致シタルカ更ニ相見  
ヘス候

問 其方ハ板垣氏ヲ殺害スヘクト意念ヲ起セシハ  
何ツ頃ナルカ

答 自分カ板垣氏ヲ愈々暗殺スヘクト決心セシハ  
三月三十日ナレモ抑モ自分カ諷事件ヲ謀ラント  
發意セシハ昨十四年十月十一日ノ聖詔ヲ拜ヒテ  
ヨリ斯ク國是ノ定マリタルキニ於テ尚自由急

進ヲ競フノ徒アリテハ邦家ノ為メニ相成ラス  
大害ヲ生スヘシト存セシヨリ彼ノ徒ノ首頭ナル板  
垣氏ヲ除キ禍乱ヲ未萌ニ防カントスルヨリ此  
事ヲ行ハントスルノ感覺ヲ生シタルナリ

問 其方カ昨夜モ陳述セシ通り朋友ノ為メニ遠  
慮アルカ如クナルモ甚タ不注意ニ似タルコトアリ何  
トナレハ其方ノ言ヲ聞クニ此暗殺ニ付テハ是非ト  
モ其趣旨ヲ大臣方ニ通シ度キトノ存心ニコレ  
ヘシ然ルニ若シ暗殺場ニ於テ殺サル、時ハ其趣  
旨ヲ表白スルニ由ナカルヘシ夫レニ趣旨ヲ書キ  
タルモノヲ残サス人ニモ言置カサルハ如何ノ趣  
旨ニテアリシカ

答 素ヨリ趣旨書ヲ携帶セシト欲シタレト何分

ニモ忽卒ノ間ニシテ且ツ若シ携帶レテ發露セ  
ンコトヲモ恐レタルカ故ニ趣旨書ヲ残サス尤モ私  
怨ニ非ス國家ノ為メニ謀リ暗殺ヲ行フ事ハ横  
須賀ニ於テ書キ残セシ手紙ト事ヲ行フ代將  
来ノ賊ト呼ハリタルトノ言ニテ自ラ相分ル可キト存  
シ居タリ

問 其方カ昨夜申述ヘシ書付ハ認メタルカ

答 別段書付ト云フ程ノ者ハ認メサレモ覺ヘ書文ケ

ハ認メ候

問 其方ガ申立ントスル暗殺趣旨ハ專ラ事實ニ

關スルカ又ハ想像論說ニ關スルコトカ

答 事実想像混交ノ事アリ故ニ願クハ人ヲ拂ヒ

其事ヲ陳述致シ度ニ付此儀御許容アリ

タシ

右ノ通陳述ノ次第ヲ錄取レ讀与ヘシ處相違  
無之旨申立ルニ付共ニ署名押印スルモノナリ

明治十五年四月八日午後二時終ル

相原尚 聚 拇印

診断書

板垣退助

右ニ者本月六日午後第七時神道中教院  
ニ於テ刺客ノ為ニ重傷ヲ被ル旨ノ急報ニ  
依リ即時出診スルニ其各創部位状況左  
ノ如シ

一 顔面左側顴骨下部ニ於テ縱徑一〇八一センチ  
チソーテ此ノ切創アリ

一 右側胸廓前面第三肋間ニ於テ一〇六一センチ  
チソーテ此ノ横位切創アリ 該創ヨリ皮下結  
締織中ニ空氣ヲ鼠入シ創圍脚カ皮下気  
腫ヲ發セリ

一 左側胸廓前面第二肋間ニ於テ一〇三〇センチ

ニチソールテルノ横位切創アリ

一右手第一中手骨間ニ於テ手背ニ二センチ  
チソールテル掛ケ手掌短拇屈筋膜ニ至ル  
長径六の七一センチチソールノ切傷アリ此ノ創  
ヲ最モ重大ナルモノトス

一左手環指第二節尺骨側ヨリ背面ノ中  
央ニ至ル并創アリ隅角直徑一の五センチチ  
ソールヲ有ス

一右手掌尺骨側ニ於テ長径半センチチソ  
ールノ皮膚創一箇アリ

一右手環指尖ニ於テ半センチチソールノ皮  
膚并創アリ

以上創并総計七箇ニシテ顔面一ヶ所胸部

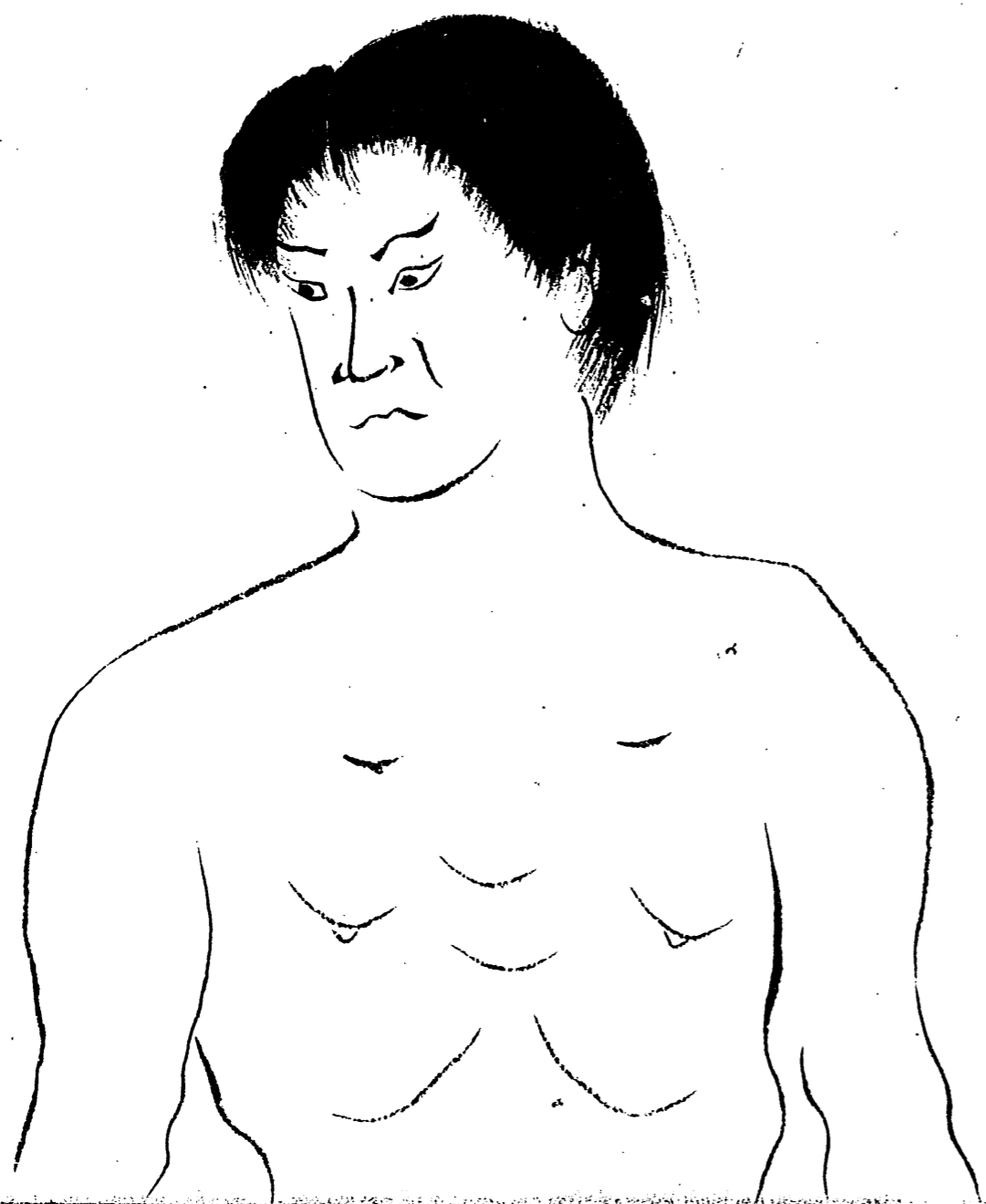
ニヶ所右手三ヶ所左手一ヶ所トス著シキ全  
身反應症ヲ認ッス体温摂氏三十七度脉搏  
八十五ナリ各創ハ縫合或ハ并創膏接合法  
等適宜ノ処治ヲ施シ置候豫後ハ未タ判断  
断決シ難シト虽胸部創ノ甚ク深カラステ肺  
臓及ヒ胸膜ニ損傷ナキト推察シ全身症輕  
易ナルヲ以テ考フレハ恐クハ幸ナシカ爾他宿痾  
氣管枝加答兒症アリテ時々咳嗽咯痰氣  
管枝變音等ノ諸症アリ

右及診斷断候也

岐阜縣病院副院長

明治十五年四月八日

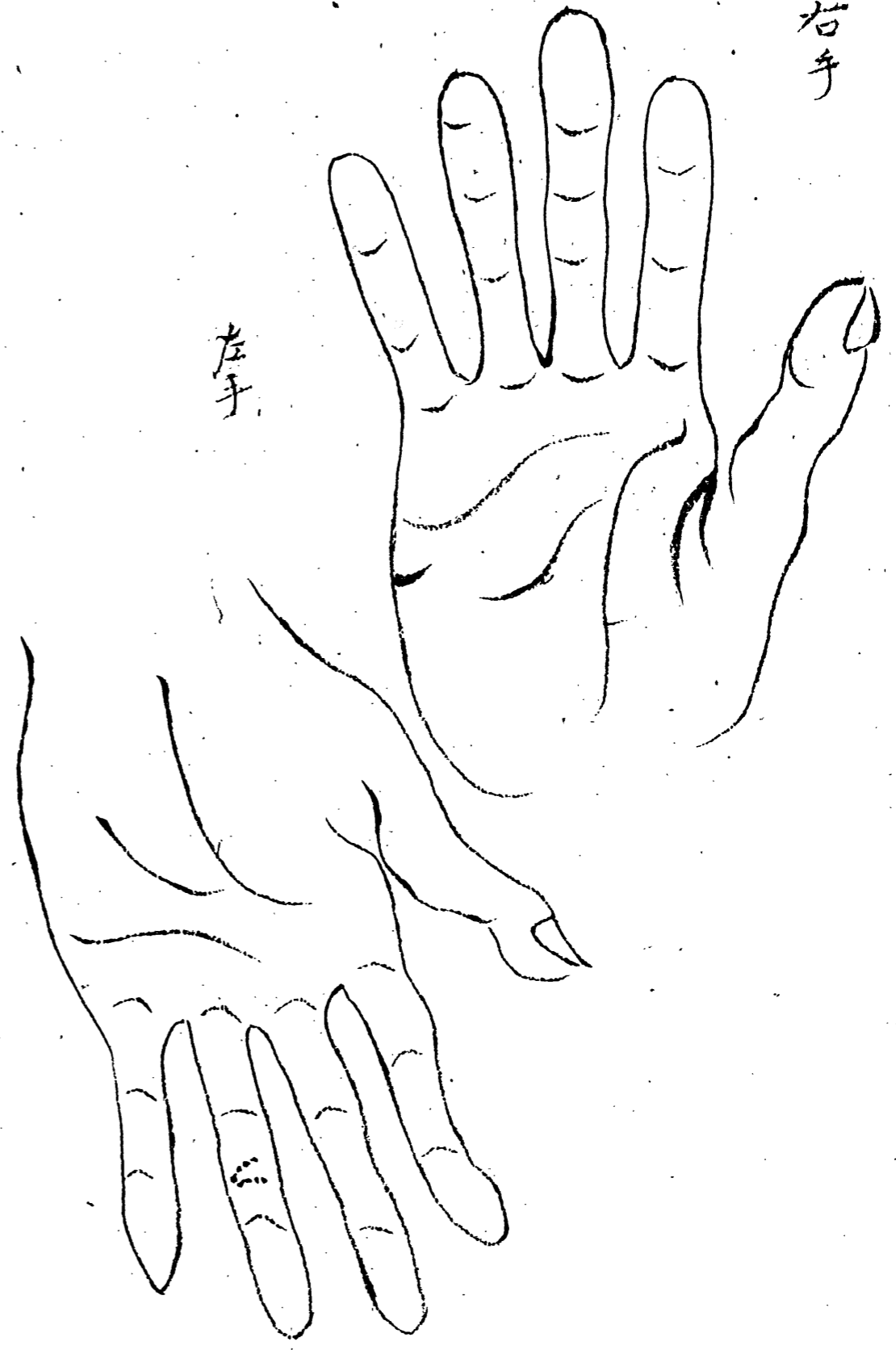
西川 黙藏



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

A grid of 20 vertical columns, likely for handwritten notes or a ledger, located on the right page of the book. The grid is empty, with only some faint markings or artifacts visible within the cells.

右手



左手

換證調書

明治十五年四月六日午後六時三十分岐阜  
 縣山形郡太郎九村平民藤吉由吉ノ告發  
 ニヨリ厚見郡富茂登村神道中教院於テ  
 高知縣士族正四位板垣退助ヲ殺害セント  
 欲シ既ニ又傷ヲ負セタル現行犯罪アルヲ認知  
 シタルニ由リ該所ニ至リ巡查渡邊時哉成田頼  
 次ヲ立會セ換證ノ処分ヲ行フ左ノ如シ  
 一該所ハ別紙第一号圖面ノ通りニシテ即ケ層  
 面中朱点ノケ所ニ於テ行兇ノ所為アリシ者ニ  
 テ血痕狼藉タリ將ク其場ニ血染タル半紙  
 壹枚落居リ拾ヒ取セリ之レハ被害者疵所  
 ヲ拭ヒタル者ト認定セリ其他異状アルヲ見ス

一被害<sup>告</sup>人ハ被害<sup>告</sup>人ニ隨後セル愛知縣碧海郡  
 重島村士族内藤魯一山形郡岩村平民大  
 野才治同郡太郎九村藤吉由吉等が現場  
 ニ於テ取押ヘ先ニ出張セル巡查ハ引渡シ既  
 ニ岐阜縣警察署ヘ拘引セリ被害者ハ右三名  
 ノ者共外數名ニテ人抱シ身見郡富茂登  
 村平民大田卯兵衛方ニ至リタルニ付談家ハ出  
 張スル所別紙第二号画面ノ家屋ニシテ同家  
 表坐敷六畳間ニ仰卧セリ依テ一応被害ノ  
 始末ヲ訊問スルニ明治十五年四月六日午後二時  
 過キ多地有志者ノ招キニ應シ富茂登村  
 神道中教院ノ懇親會場ニ臨ミ同日午後六  
 時比退場節去関前ニ於テ何者共不知忽然

短刀ヲ以テ突キ數ヶ所疵傷ヲ負セタル所中  
 ニ隨後者内藤魯一大野才治藤吉由吉  
 等カ兇犯者取押ヘ出張巡查ハ引渡シタル  
 旨申陳セリ爰ニ於テ備医武山留殿ヲ立會  
 セ疵所檢スルニ左ノ如シ

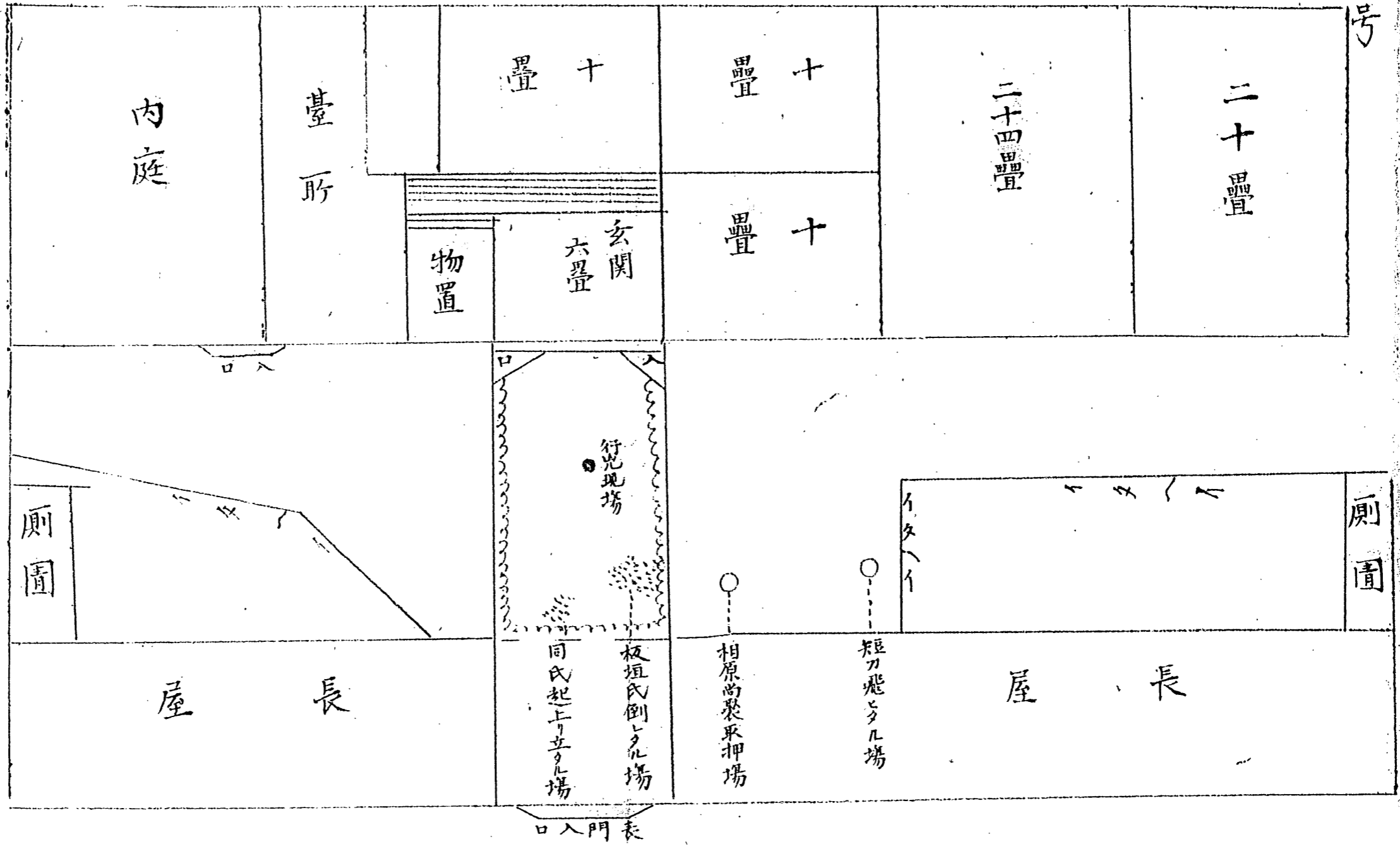
- 一胸骨右部第三肋骨部切疵壹ヶ所長一應
- 半巾二分深三分
- 一胸骨左ノ方第二肋部切疵壹ヶ所長一應二分中
- 二分深三分
- 一右手拇指示指ノ間切疵壹ヶ所長二應中壹分
- 深巾中央ニテ三分兩端淺
- 一右手環指切疵壹ヶ所長斜ニ一應中深記スルニ至ラズ
- 一左手環指切疵壹ヶ所長一應輕クシテ廣深ヲ記スルニ至ラズ

一左頬部擦痕一ヶ所但刀尖ナルヘシ  
 右終テ本縣病院院長西川黙藏岐阜大工町医師青  
 木雄哉ニ疵所治療ヲ命シ続テ被害者衣服ヲ  
 点検スルニ直着胸当リシャツノ三品血染ミ胸部  
 ニ当ル所左右ニ一ヶ所ツ、切破リアリ(右方五分 左方七分)又手  
 袋拇指ト示指ノ間カ切破リアリ其他異状アル  
 ヲ見ス  
 一右檢視ノ上被害者<sup>音</sup>示シ證品ニ胸当テ一枚徴  
 収セリ  
 一前頭ノ通り檢証ヲ為シ而シテ證人内藤曾一  
 藤吉苗吉大野才治ノ三名ニ現況ヲ訊問スル  
 ニ夫是混雜ノ中ニテ細答スル能ハサレ其陳  
 申スル所被害者ノ陳述ト正ニ符合セルニ依リ

取鎖ヲリタル上始末詳細筆録シ差出ヘリ昔  
 連置タリ  
 一右行兇ノ所為ハ被害者相原尚取衣ノ所為タルイ  
 ヲ確認セリ  
 一差押ヘタル物件ハ別紙目錄ト通り  
 六時五分檢證ヲ始メ午後十時三十分ニ終ル依テ  
 現場ニ於テ此調書ヲ記シ左會人ト共ニ署名捺  
 印スル者也

岐阜警察署  
 明治五年四月六日 警部補山崎 正  
 左會人 巡查渡邊時哉  
 全 巡查成田頼次

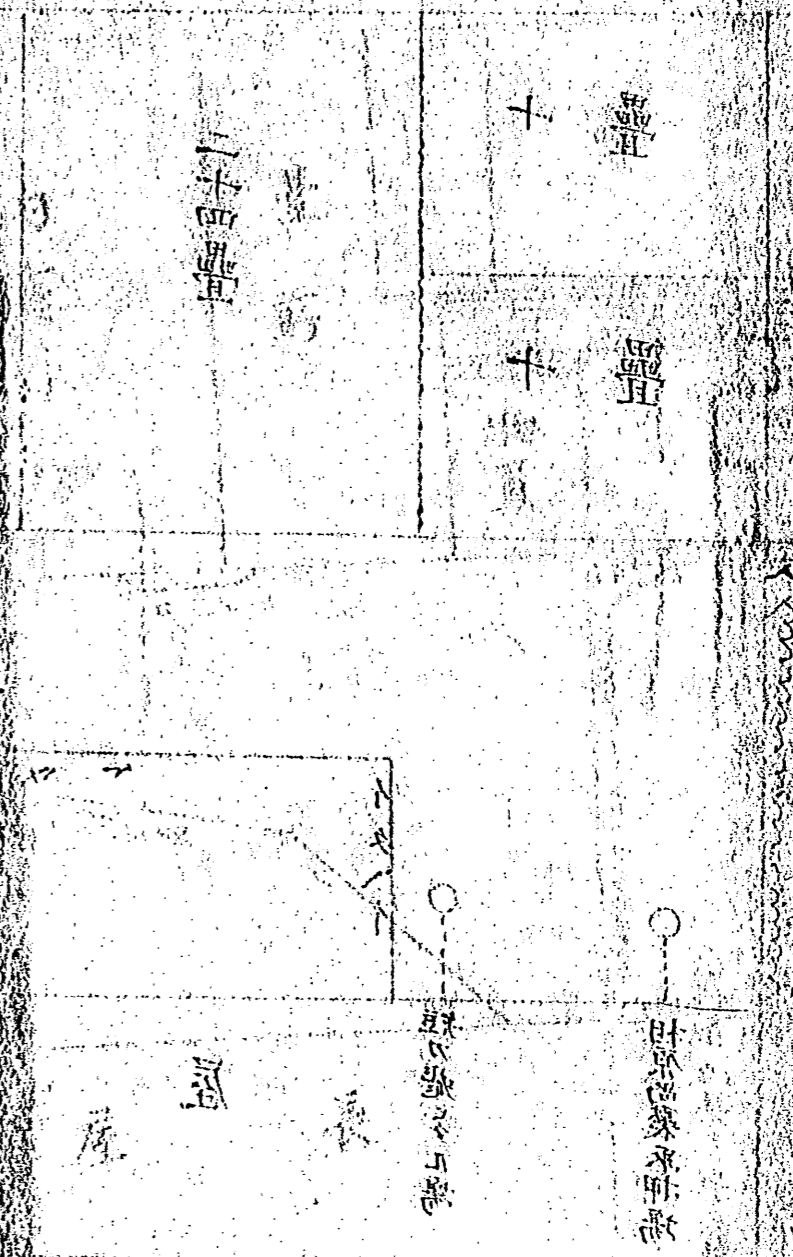
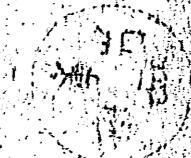




明治十五年四月六日午後六時三十分厚見郡富茂登村  
 神道中教院玄關前ニ於テ自由黨總理板垣退助真  
 傷セリ現場之畧圖

岐阜警察署 署 誥

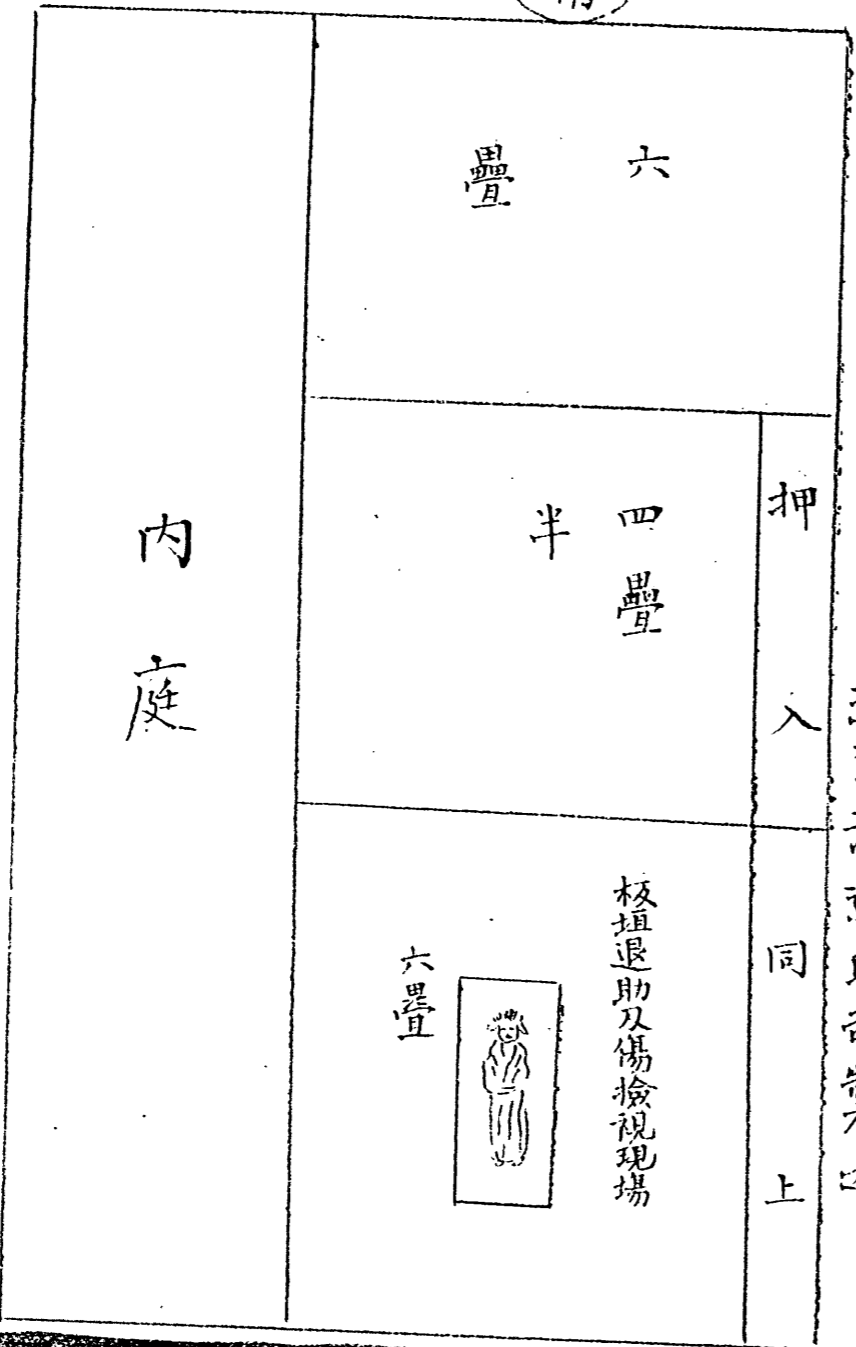
巡查渡邊時哉製此圖



第二号

厚見郡富茂登村神道中教院門前  
大田守兵衛宅畧圖

巡查渡邊時哉制衣之



神道中教院大門通

差押物件目録

一短刀在銘魚景

壹本

但身ニ血痕アリ長九寸「中七分重」柄糸黒色

縁頭鍍金銀象眼ハ目貫色繪鬼 鉏素銅

切羽金燒「鍔鉄ニ蜻蛉ノ金象眼ハ 鐺目上」

小柄鍍ニ人物象眼ハ小刀相摸守段常鉏アリ 栗形角

下緒絹草色平打 鞆黒タキ

一白シャツ胸當 壹個

但刀痕ニケ所血痕斑々アリ

一白半紙 壹枚

但血ニ染ミタリ

右證據物件ニ相違之レナクモ、也

岐阜警察署

明治十五年四月六日

出張先ニ付署名  
ヲ用セス

警部補山崎正

書記

巡查渡邊時哉

山崎

診断書

板垣退助

一胸骨右部第三肋骨部切痕一ヶ所

長一應半中二分深三分此部一針縫合

一胸骨左方第二肋骨部切痕一ヶ所

長一應二分中一分深三分此部一針縫合

一右手拇指示指ノ間切痕一ヶ所

長二應中一分深中央ニテ三分兩端淺シ

一右手環指切痕一ヶ所

長斜ニ一應中深記スルニ至ラス

一左手環指切痕一ヶ所

長一應許輕シテ膚深ヲ記スルニ至ラス

一左頰部擦傷一ヶ所但刀尖ナルハシ

右疵所各鮮創膏月ヲ貼シ防腐繃帶ヲ施シ  
或ハ剖木繃帶シ胸部ノ疵所防火法ヲ施シ  
手術者本縣病院長西川熟藏主任ナリ  
診査如斯候也

明治十五年四月六日午時 警察署醫官 山巖

診断書

高知縣士族

板垣退助

右診断ニ及ヒ候患員傷部ハ先診断醫官  
差出ス患ノ檢視書ノ如シ而シ其豫后ニ至  
テハ生命ヲ失フニ至ラザルモト考案ス然レ  
氏コトハ主任醫官ノ施治ニ参座シテ治法ノ  
詢議ニ意見ヲ述フルノ委任ヲ受ケタルモ  
ノニシテ未タ獨立ノ意見ヲ敢言官ニ口至スハ  
キノ格ヲ有セズ此段申添置候也

明治十五年

愛知醫學学校長兼病院長

四月八日

後藤新平

調書

明治十五年四月八日午後二時被告人相原尚駁ニ對シ第二回ノ  
訊問アリ是時被告人暗殺ノ趣旨ヲ密ニ申述度ニ付人拂ノ儀  
ヲ望ムニ依リ其事ヲ許容シ本職一人ニテ秘密ニ関スト云フ処ノ申  
立テ聞ク左ノ如シ

問 其方カ申立度ト云フ秘密ニ関スル暗殺ノ趣旨トハ如何ナリ  
ナルヤ

答 然ラズ申立度ハ何卒此事ヲ閣下ヨリ秘密ニシテ大臣參謀  
ニ直達セシメテ希望ス抑モ去ル明治六年ノ暮頃征韓論  
ノ事件ヨリ西郷江藤板垣副島ノ諸士廟堂ヲ退キ  
未江藤西郷ハ叛旗ヲ擧テ遂ニ亡ビ勢力ノ衰ノ人ニシテ  
今世ニ存シ居ルハ實ニ板垣氏一人ト云フテ可ナルハ爰ヲ以テ  
若シ板垣氏ニシテ国家ヲ懷ヒ王室ニ忠ヲ尽シ即勤王ノ志

厚キ時ハ其功益誠ニ大ナレト虽モ若シ又国家ニ尽スノ  
義務ハ務ルレト王室ニ對シ忠實ノ心ナク勤王ノ志厚カラズ  
時ハ是亦其害頗ル大ナリト云ハサルヲ得ス然リ而シテ板垣  
氏ハ明治六年ノ冬職ヲ辞セシ未タ數日ナラスレテ明治七  
年ノ春ニ至リ彼ノ有各十九民撰議院ノ建白ヲ出サレシ  
若シ氏ニシテ真ニ忠君愛國ノ士ナレバ自身カ在職ノ時ニ於テ  
飽マテモ言ヲ尽シ忠ヲ納レテ國家ノ功益ヲ謀ルヘキニ氏ハ朝ニ在  
ル時ハ少しモ建白參畫アルヲ聞カス俄ニ職ヲ辞スルヤ此ノ  
如キ建言ヲ為スヲ以テ之ヲ見レバ氏ノ志ハ真ニ愛國忠君ニ  
在ルニテラスレテ膏タニ不平ヲ漏サレカ為メニ為レタル事ト認  
メラルヲ得ス又氏ハ明治十年西南ノ騷亂熊本城ノ存亡  
未タ明カラサルノ時ニ於テ片岡謙吉等ヲシテ母ヒ又國會  
閉設ノ事ヲ建白セシメタリ若シ果シテ氏カ真ノ愛國勤

王ノ人ナラバ邦家危急ノ時ニ當テ奮然起テ賊ヲ討シ禍亂  
戡定後徐上層建白ヲ為シテ決シテ臣シトセサルハカニ也  
舉ニ出テ徳王師不振危急ノ秋、乘ニ即テ王家ノ弱キニ  
付テ上書シタル實ニ自分共ヨリ之ヲ傍觀スレバ氏ハ誠ニ  
愛國士ニアラサル乎ト思料セラル夫レ也如キ志操ニ板垣  
氏ニシテ自由主義ヲ唱ヘ覺派ヲ組立テ其領袖トナリテ自  
由黨ヲ總理スルヲ以テ極ニ其黨派ノ入モノ輕賤浮薄ノ  
徒多ク自由權義ト云ハ板垣氏ノ私有物ノ如ク思フ做  
レ一法ノ出ルニ隨ヘハ之ヲ推シ一律ノ立アルハ之ヲ穢リテラニ  
官吏、抗抵スルノ是殆ト少ク國家ノ對スルノ義務  
ヲ尽スルヲ思ハス甚シキニ至テハ日本板垣アルヲ知テ天  
子アルヲ知ラサルカ如キノ状況アルヨリ夫レ比ノ如ク輕躁  
過激、輕ヤルハ宜ニ板垣氏之カ者唱タルヲ以テ之心ヲ

シテ此傾向ヲ示シタルノ責ハ氏其品ヲ過ルニ多ク得ザル  
キ也

之刻場示シ短カク見レバ其模様何分深刻ト得サル  
カ如ク覺ヘ且ツ凡評ヲ徹カシ固キ板垣氏ハ其時自  
身ノ差領ヲ用ヒタラシ  
ニ斯ルニナカリモト思ヒ交ニ遺憾ナキナリ且ウ充  
分ニテ遂テ後テ事ヲ陳述セ其交ニ強合アルナリ  
トモ未タ遂テスニテ陳述スル如何トモ本意ナキナリ  
故、事理錯雜スヘシト充分申向ナレタレ  
只今陳述致ス通リノ板垣氏ナレ其苦シクシテ久ク世ニ立  
タレシ時如何ナル大害ヲ惹起サレテ計リ難クト深ク考  
ヘタルヲ以テ遂ニ此人ヲ強シテ社會ノ禍乱ヲ未萌ニ禦カ  
ントト思ヒテ遂ニ此目的ヲ以テ改革地ノ懇親會ヲ臨

ミタル次中ナリ然ルニ尚實地存キ彼レノ言論ヲ聞キ且  
内藤魯一ノ演説ヲ承ルル愈々自分カニ思テ思考セシ處ニ  
異ナラサル存彼ノ事件ニ及ヒタルモノナリ

板垣氏ノ演説ニ於テ遠心カト求テ力ノ比例ヲ列キ政府  
ト人民ノ關係ヲ大陽係ニ譬ヘ今ノ政府ハ干涉甚シ若  
シ閣議ノ甚シキハ壓抑トナリ壓抑トナシハ自由ヲ減セ  
ラルトシテ其意ヲ述ヘテ年々生ノ如ク直接ニ政府ヲ攻撃  
セカレバ暗裏面ヨリ現政府ヲ誹謗シテ知識アルモノ  
ガシテ聞カレシハ充分了解スルニ據リ説キ巧ミモ暗ニ政  
府ヲ厭惡セシタルノ意思ヲ双元セシメタリ自分一タト斯ル演  
説ヲ聞キ愈々其意ヲ板垣氏ニ及シテ社會ニ立テシキ人ト  
アラズ身ヲ抛テキモ此人ヲ除カレタル存念ヲ堅固ニシタル  
者ナリ



続々内藤魯一ノ演説曰ク(政界論ト云フ演題)明治  
六年板垣氏亦未ク廟堂ニ立ツヘテ政府ハ公議輿論ヲ  
執リテ政界トシタレバ板垣氏退カセテ以テ未ク公議輿  
論ニ及スルノ政界多シ又明治八年ノ聖詔ヲ草シタルノ  
板垣氏ニテ詔ノ内漸次立憲政体トシテ漸次ノ字ニ付キテ  
ハ板垣氏ト故木戸顧問ト大ニ議論アリクニ遂ニ漸次ノ  
字ヲ入ルヘテ決シタリ云々若シ夫レ此事實果シテ虚ナ  
シハ板垣氏モ傍ニ居ルヘテ存シタルニ由ナルヘシ若シ  
ルコトモハ案ニ板垣氏ノ為ニ取ラレリナリ何トナレハ氏  
既ニ顯要ノ位ニ在リ詔迄ヲ草シタル位ノ人ナルニ旦朝  
ヲ辭シタル后ニ於テ此ノ如ク聖詔ノ初メノ意ハカクアリ  
ト魯一ノ語ニ又魯一カ憚カラス公衆ノ前ニ於テ吾嘗テ板  
垣總理ニ同ク云々ト云ヒ箇様ナル演説ヲ傍觀スヘキナ  
リ

ラス畢竟竟スルニ板垣氏其真ニ愛君國ヲ思フ人ニアラス暗  
ニ政府ノ信認ヲシテ人民ノ上ニ減セシムル事ニ是計ルノ人  
物ニシテ誠ニ憎ミ堪ヘタムノ所業ト云ハサルヲ得ス  
又内藤魯一昨十四年十月ノ聖詔ニ刑ニ処スル事ニ  
ハ誠ニ餘計ノ詞ナリト云ヘリ實ニ此ノ如キノ言詞ハ聖詔對  
シ不敬極ムル處ノ演説ニシテ彼ノ自由黨ノ幹事ト云ヒ人  
尊ビル處ノ魯一ニシテ如此言論ヲ憚カラス吐露スルヲ見  
ルニ又板垣氏ニ於テ之ヲ許スヲ見ルニ自由黨ノ暴慢危激  
世ニ大害アル誠ニ昭々ナリ以上ノ如キ言論ヲ聞キ兼テ  
思考スル處ニ毫モ異ナラサルニ付板垣氏ヲ除カサレハ此害源  
ヲ塞クニ足ラサル事ト思料シタリ故ニ彼人ヲ刺殺シ然ル  
后官ニ自首シ甘シテ法律ヲ犯スノ刑辟ヲ受ケント  
存シ居スニ遂ニ現場ニ於テ取押ヘラレタルノ次第ナリ

問 其方カ起意セシ板垣氏暗殺ノ趣旨トハ先刻ヨリハ陳

述ニテ尽キタルヤ

答 先ツ自分カ暗殺ノ趣旨ハ以上ノ陳述ニテ其主眼ヲ尽シ  
タリ然レニ今此陳述ヲ畢ルニ當リ一應申上度ト思故何  
卒換事閣下ヨリ政府ノ大臣参考議ニ尚裝カ微意ヲ  
申徹スルノ取計下カレタシ

問 其大臣参考議ニ其方カ微意ヲ示レヌレトハ何等ノ事  
ツ申立ツベシ

答 餘ノ儀ニモ候ス尚裝カ大臣参考議ニ言上セシトスル事トモ  
モ大臣参考議ニシテ一旦朝ノ退クニ方リ不平心ヨリ濫リ  
申上ル我ヲ唱ヘ叛國ノ義ヲ忘レ君ヲ愛スルノ情ヲ久ク  
思想シ盡意セントスル人アラハ亦世ニ尚裝ト暗ト志ヲ同  
ルモノアリテ直ニ自分カ板垣ヲ刺殺シタルト同様ノ事

ヲ仕出ス可ニ願クハ廟堂ノ諸公ニシテ板垣氏ノ覆轍  
ヲ履ムコトナラサ苟モ政事主義ヲ擴張スルナラハ真正  
ノ自由真正ノ愛國忠君ノ政黨ヲ為セ若シ政  
事ニ関セハ花鳥風月ヲ禦ニ悠々世事ヲ咏  
亦決シテ邦家ノ大害ヲ生スルノ源ト為ルコトナラ  
ト令刑餘ノ尚裝カ死ヲ以テ忠告ヲ奉ル所以ナ  
リ此事サハ廟堂ノ諸公ニ貫徹スレハ尚裝カ死  
以テ憾ミナシ且シ尚裝カ微忠ノ存スル處ナリ  
然ルニ只恨ムラハ板垣退助ヲ充分ニ矚ハル處  
ニシテ是ノ死スモ瞑ニ能ハサル處ナリ  
右ノ通陳述ヲ録取シ讀聞セタル處無相違旨ヲ  
申上ルニ付共ニ捺印署名スル者也

相原尚裝 捺印

明治十五年四月八日

午五時五分

岐阜輕罪裁判所

換事奥宮正治印

御  
覽  
畢

右記福井縣令及川候岐阜縣部長  
外此之通電被受之旨付電聞也

明治十五年四月十日 内務卿 山田 敬 義



太政大臣之條實美殿

